

この PDF は以下の書籍から第 2 章 (pp.7-18) を抜粋したものです。

倉部慶太. 2020. 『ジンポー語文法入門』. 府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.



第2章

発音と文字

ジンポー語はローマ字による正書法を持つ。この正書法は、米国浸礼教会の宣教師オーラ・ハンソンにより 1890 年代に考案された。正書法は、今日たいへん広く通用している。基本的に、文字は書いた通りに発音される。ただし、声調と声門閉鎖音は文字によって表記されない。

2.1 文字

ジンポー語はローマ字による正書法を持つ。現在通用している正書法は、1890 年代に現在のカチン州バモー市に赴任した米国浸礼教会の宣教師オーラ・ハンソン (Ola Hanson) により考案された。彼は、それまでに考案されつつあったカレン文字による正書法を排し、ローマ字による正書法を採用した。彼は 1892 年にローマ字による正書法を示した綴り字教本を著わし、正書法は 1895 年に現地政府により正式に公認された。その後、ハンソンは、文法 (Hanson 1896、1917)、辞書 (Hanson 1906)、新約聖書 (Hanson 1911)、旧約聖書 (Hanson 1926) などを著わし、識字率の向上と文字の普及に多大な貢献を果たした。ハンソンの聖書翻訳は今日も利用されている。

このハンソンによる正書法は、今日たいへん広く通用しているため、本テキストの表記にもこの正書法を用いる。正書法は基本的に書いた通りに発音される。ただし、後述するように、語の区別に関わる点で重要な役割を持つ声調および声門閉鎖音は、正書法では表記されない。本テキストの表記は基本的に正書法に基づき、必要に応じてより正確な表記 (音素表記) を / / に、さらに正確な表記 (音声表記) を [] 内に示すことにする。

2.2 母音

母音の種類

基本母音には **a, i, u, e, aw /o/** の5つがある。また、それらを組み合わせた二重母音として、**ai, au, oi, wi /ui/** の4つがある。母音には、**ă** も認められるが、この母音は2音節語の第1音節にしか現れないなどの点で、副次的な母音である。

表 2.1 母音文字

単母音	a	i	u	e	aw	ă
二重母音	ai	oi	wi	au		

発音に注意を要する母音は次の通り。

- **aw** は「アウ」ではなく「オ」と発音する (i.e., [ɔ])。
- **ă** は軽く短く「ア」と発音する (i.e., [ə])。
- **oi** は「オイ」よりも「オエ」に近い (i.e., [ɔi])。
- **wi** は「ウイ」と発音する (i.e., [ui])。

発音しましょう

(1) **baw** 「頭」

(3) **woi** 「猿」

(5) **sau** 「油」

(2) **nai** 「いも」

(4) **gwi** 「犬」

(6) **lăgaw** 「足」

ă の表記について

語の大部分は1音節語 (e.g., **nang** 「あなた」) か2音節語 (e.g., **shăra** 「場所」) である。2音節語の第1音節に現れる母音は、多くの場合 **ă** である (e.g., **lăgaw** 「足」)。このように、**ă** は予測可能であることが多いため、単に **a** と表記されることが多い (e.g., **lagaw** 「足」)。本テキストでも、必要な場合を除いて、**ă** を **a** と表記することにする (2.8 節も参照)。

母音の長短

日本語と異なり、ジンポー語には短母音 (e.g., 「ア」) と長母音 (e.g., 「アー」) の区別はない。ただし、発音の習慣として、**ă** 以外の母音は語末で長く発音する。例えば、**ma** 「子ども」は「マ」ではなく「マー」、**u** 「鳥」は「ウ」ではなく「ウー」と発音する。一方、非語末では母音は短く発音する。例えば、**mam** 「稲」は「マーム」ではなく「マム」、**kan** 「腹」は「カーン」ではなく「カン」と発音する。二重母音は両方の母音を短く発音する。例えば、**nai** 「いも」は「ナーイ」や「ナイー」ではなく「ナイ」と発音する。

比較しましょう

- | | | |
|-------------|----------------|-------------|
| (1) la 「男」 | (3) lu 「手に入れる」 | (5) sa 「送る」 |
| (2) lam 「道」 | (4) lup 「埋める」 | (6) sai 「血」 |

練習問題 1

発音しましょう

- | | | |
|----------------|-----------------|---------------|
| (1) ma 「子ども」 | (6) mat 「なくす」 | (11) mai 「よい」 |
| (2) li 「舟」 | (7) lit 「負担」 | (12) sau 「油」 |
| (3) u 「鳥」 | (8) up 「支配する」 | (13) woi 「猿」 |
| (4) chye 「知る」 | (9) chyen 「半分」 | (14) gwi 「犬」 |
| (5) taw 「横たわる」 | (10) hkawm 「歩く」 | (15) lamu 「空」 |

考えましょう

- a, i, u, e, o の 5 母音体系は、なぜ世界の言語でもっとも一般的なのでしょう
- ジンポー語の母音の長短に見られる規則は、世界のほかの言語にも観察される一般的なものです。日英語を考えましょう

2.3 子音

子音の種類

子音には以下のものがある。h は単独ではほぼ用いない。

表 2.2 子音文字

	両唇	歯茎	歯茎硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音・破擦音	p	t	ts	chy	k
	b	d	z	j	q
	hp	ht			g
摩擦音			s	sh	hk
					(h)
鼻音	m	n			ng
流音		l	r		
半母音	w		y		

注意を要する子音を母音 a をつけて説明する。(冗長性を避けるために、とくに必要で

ない場合、以下では母音の長短の別をカタカナで表記しない。) *chya* は「チャ」、*sha* は「シャ」、*nga* は「ンガ」(ンとガを一度に発音する感じで)と発音する (i.e., [tʃa, ʃa, ŋa])。

発音しましょう

- | | | |
|------------------------|----------------------|---------------------|
| (1) <i>chye</i> 「知る」 | (3) <i>sha</i> 「食べる」 | (5) <i>nga</i> 「牛」 |
| (2) <i>chyang</i> 「黒い」 | (4) <i>shi</i> 「彼」 | (6) <i>ngu</i> 「いう」 |

hpa, *hta*, *hka* は有気音を表す (i.e., [p^ha, t^ha, k^ha])。例えば、*hpa* は「パハア」を一度に発音する感じで発音する。一方、*pa*, *ta*, *ka* は無気音を表す。例えば、*pa* は「パ」と発音する。このように、ジンポー語は、*p*, *t*, *k* と *hp*, *ht*, *hk* の対立を持つ。

比較しましょう

- | | | |
|--------------------|---------------------|----------------------|
| (1) <i>pa</i> 「平だ」 | (3) <i>tu</i> 「生える」 | (5) <i>kan</i> 「腹」 |
| (2) <i>hpa</i> 「何」 | (4) <i>htu</i> 「掘る」 | (6) <i>hkan</i> 「山猫」 |

tʃa はもともと「ツァ」と発音されていた。しかし、高年層の話者を除き、多くの話者は「サ」と発音する。そのような話者においては、*tʃa* と *sa* は「ツァ」と「サ」の区別ではなくなっている。ここでは、*tʃa* は無気音の「サ」、*sa* は有気音の「サ」の対立となっている (i.e., [sa] vs. [s^ha])。

比較しましょう

- | | | |
|-----------------------|--------------------|----------------------|
| (1) <i>sa</i> 「行く、来る」 | (3) <i>si</i> 「果物」 | (5) <i>sun</i> 「庭」 |
| (2) <i>tʃa</i> 「100」 | (4) <i>tsi</i> 「薬」 | (6) <i>tsun</i> 「いう」 |

l は舌先を歯茎の裏につけて発音される (i.e., [l])。一方、*r* は舌先をそらせ、ときに摩擦をともなって発音される (i.e., [ɺ ~ ʀ])。

比較しましょう

- | | | |
|-------------------|-----------------------|----------------------|
| (1) <i>li</i> 「舟」 | (3) <i>lu</i> 「手に入れる」 | (5) <i>lam</i> 「道」 |
| (2) <i>ri</i> 「籐」 | (4) <i>ru</i> 「根」 | (6) <i>ram</i> 「充分だ」 |

tu は「ツ」ではなく「トゥ」、*du* は「ズ」ではなく「ドゥ」、*ti* は「チ」ではなく「ティ」、*di* は「ジ」ではなく「ディ」と発音する。

比較しましょう

- | | | |
|--------------|------------------|-------------|
| (1) tu 「生える」 | (3) ting 「すべて」 | (5) tum 「種」 |
| (2) du 「着く」 | (4) ding 「まっすぐだ」 | (6) dum 「倉」 |

si は「シ」ではなく「スイ」と発音する。一方、shi は「シ」と発音する。

発音しましょう

- | | |
|----------------|-------------------|
| (1) si 「死ぬ」 | (3) sin 「暗い」 |
| (2) shi 「彼/彼女」 | (4) shing 「そのように」 |

練習問題 2

発音しましょう

- | | | |
|-----------------|---------------|-------------------|
| (1) chya 「塗る」 | (6) hka 「苦い」 | (11) tim 「しかし」 |
| (2) shan 「肉」 | (7) san 「訊ねる」 | (12) ding 「真っすぐだ」 |
| (3) nga 「魚」 | (8) tsing 「草」 | (13) tun 「溶ける」 |
| (4) hpanɡ 「始める」 | (9) la 「男」 | (14) dung 「座る」 |
| (5) htaw 「運ぶ」 | (10) ri 「糸」 | |

考えましょう

- 有気音と無気音の区別を持つ言語にはどのような言語があるか調べましょう
- ts > s の変化はなぜ起こるのでしょうか。地域的に広く見られるこの変化について考えましょう
- [s] と [s^h] の区別は、通言語的には珍しいですが、地域的にはどうでしょうか
- 日本語の「チ」と「シ」の発音について考えましょう

2.4 子音結合

子音を2つ以上組み合わせたものを「子音結合」と呼ぶ。子音結合は音節頭にしか現れない。子音は2つまで結合可能である。子音結合の1番目の子音は必ず p、hp、b、m、k、hk、g、n のどれかであり、2番目の子音は必ず y か r のどちらかである。可能な子音結合を表 2.3 にまとめる。

表 2.3 子音結合

pr	br	hpr
py	by	hpy my
kr	gr	hkr
ky	gy	hky ny

母音 a をつけて説明する。pya は「ピャ」、kya は「キャ」、mya は「ミャ」、nya は「ニャ」と発音する。pra は「プラ」(プとラを一度に発音する感じで)、kra は「クラ」(クとラを一度に発音する感じで) と発音する。

発音しましょう

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| (1) pru 「出る」 | (6) hpyi 「求める」 | (11) kya 「柔らかい」 |
| (2) bra 「拡散する」 | (7) myen 「ミャンマー」 | (12) gyip 「狭い」 |
| (3) hpraw 「白い」 | (8) kru 「6」 | (13) hkyeng 「赤い」 |
| (4) pyaw 「楽しい」 | (9) grai 「とても」 | (14) nye 「私の」 |
| (5) byawng 「溶ける」 | (10) hkra 「右」 | |

考えましょう

- 日英語の子音結合とジンポー語の子音結合を比較しましょう
- なぜ子音結合の 1 番目の子音と 2 番目の子音はこの順序 (e.g., pr) であって逆の順序 (e.g., rp) ではないのでしょうか。英語なども参考に考えましょう

2.5 末子音

音節の末尾に現れる子音を「末子音」と呼ぶ。日本語の末子音には「ッ」や「ン」がある。一方、ジンポー語の末子音には以下のものがある (-q については 2.6 節を参照)。

表 2.4 末子音

-p	-t	-k	-q
-m	-n	-ng	

末子音で注意すべきことの 1 つは、2.2 節で述べたとおり、末子音の前の母音はすべて短く発音するという点である。例えば、mam 「米」は「マム」と発音し、「マーム」では

ない。末子音について注意すべきもう 1 つの点は、閉鎖を解放しない点である。例えば、gap 「撃つ」という語の最後の p は、両唇 (上と下の唇) を閉じた状態で終わらせる (i.e., [p], [m], etc.)。英語のように両唇を開いてはならない。

発音しましょう

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| (1) tsap 「立つ」 | (3) asak 「命」 | (5) mun 「毛」 |
| (2) sat 「殺す」 | (4) lam 「道」 | (6) mung 「～も」 |

2.6 声門閉鎖音

正書法では表記されないが、語の区別に関わる重要な音に声門閉鎖音と声調がある。声門閉鎖音は、「イタッ」や「イロッイロ」などに出てくる「ッ」の音である。例えば、「いま」を表す語 ya は、「ヤー」ではなく、「ヤッ」と発音する。一方、「与える」を表す語である ya は「ヤー」と発音する。このように、正書法では無表記であるが、声門閉鎖音をとまなう例がある点に注意されたい。本テキストでは、必要に応じて声門閉鎖音を q で示す。すなわち、「今」は /yaq/、「与える」は /ya/ と表記する。声門閉鎖音の大部分は、2.5 節で見たような末子音として現れる。

発音しましょう

- | | | |
|--------------------|---------------------|---------------------|
| (1) wa 「豚」 /waq/ | (4) ta 「手」 /taq/ | (7) kaw 「～に」 /kawq/ |
| (2) myi 「目」 /myiq/ | (5) mu 「雷」 /muq/ | (8) hte 「～と」 /hteq/ |
| (3) du 「首」 /duq/ | (6) hpe 「～を」 /hpeq/ | |

例は多くないが、声門閉鎖音を含む共鳴音 (i.e., m, n, ng, l, r, w, y) が一部の語に観察される。例えば、wan 「火」は /qwàn/ 「ッワン」のように発音される。ただし、若年層話者ではこの声門閉鎖音は失われつつある。したがって、wan 「火」は /wàn/ と発音してもよい。

比較しましょう

- | | | |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|
| (1) wan 「百万」 /wàn/ | (3) mang 「死体」 /mang/ | (5) nga 「いる」 /ngà/ |
| (2) wan 「火」 /qwàn/ | (4) mang 「暗い」 /qmang/ | (6) ngam 「残る」 /qngàm/ |

考えましょう

- 日本語の「ッ」はすべて同じ音でしょうか

- なぜ声門閉鎖音は正書法で表記されないのでしょうか
- 声門閉鎖音の無表記による読み誤りは起こらないのでしょうか
- 声門閉鎖音を伴う共鳴音は声調分岐においてどのようなグループとして振る舞うのでしょうか

2.7 声調

正書法で表記されないもう1つの音として声調がある。例えば、la「取る」は高平調または上昇調のピッチで (i.e., [55] ~ [35])、la「男」は中平調のピッチで (i.e., [33])、la「待つ」は低く下降するピッチで (i.e., [31]) 発音される。また、頻度は低い、高いピッチから急激に下降する声調 (i.e., [51]) が一部の語に観察される (e.g., nu /qnû/ 「母」)。本テキストでは、必要に応じてそれぞれの声調を /á、a、à、â/ と表記する。

比較しましょう

- | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| (1) la「取る」 /lá/ | (4) nga「魚」 /ngá/ | (7) ga「土地」 /gá/ |
| (2) la「男」 /la/ | (5) nga「牛」 /nga/ | (8) ga「(経験)」 /ga/ |
| (3) la「待つ」 /là/ | (6) nga「いる」 /ngà/ | (9) ga「言葉」 /gà/ |

鼻音で終わる音節にも同じ種類の声調が実現される。

比較しましょう

- | | | |
|----------------------|---------------------|-------------------|
| (1) hkam「罨」 /hkám/ | (4) mung「国」 /múng/ | (7) dum「思う」 /dúm/ |
| (2) hkam「元気だ」 /hkam/ | (5) mung「曇る」 /mung/ | (8) dum「倉庫」 /dum/ |
| (3) hkam「耐える」 /hkàm/ | (6) mung「～も」 /mùng/ | (9) dum「叩く」 /dùm/ |

閉鎖音 (i.e., p, t, k, q) で終わる音節では高く短い声調 (i.e., [5q]) と低く短い声調 (i.e., [1q]) の2つのみが実現される。

比較しましょう

- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|
| (1) gat「市場」 /gát/ | (3) sat「ござ」 /sát/ | (5) la「(強調)」 /láq/ |
| (2) gat「走る」 /gàt/ | (4) sat「殺す」 /sàt/ | (6) la「閉じる」 /làq/ |

考えましょう

- 東南アジアの声調を持つ言語を挙げてみましょう

- 声調は歴史的に不変でしょうか
- 歴史的に声調はどのように発生するでしょうか
- 声調と言語接触の関係について中国語の方言を調べましょう
- 声調と湿度にはどのような関連があるでしょうか
- なぜジンポー語を含む世界の声調言語では、閉鎖音で終わる音節の声調数が減少するのでしょうか

2.8 弱化母音

ほかの母音と異なり、母音 *ǎ* は「アー」ではなく短く「ア」と発音する。このような母音を「弱化母音」と呼ぶ。ほかの母音と異なり、弱化母音は声調の対立を持たない。語(形態素)のほとんどは1つか2つの音節からなるが、2音節語の大部分は第1音節に母音 *ǎ* を持つ。例えば、shara「場所」は「シャラー」と、masha「人」は「マシャー」、gara「どこ」は「ガラー」と発音する。母音 *ǎ* は常に語頭に現れ、決して語末には現れない。すなわち、「シャーラ」、「マーシャ」、「ガーラ」などの語はありえない語である。このように、ジンポー語は「タンタ」ではなく「タタン」というリズムを好む言語である。弱化母音は正書法では厳密には *ǎ* と表記されるが、実際は単に *a* で表記されることが多い。そのため、本テキストでも、とくに必要な場合を除き、単に *a* と書くことにする。上述のとおり、2音節語の最初の *a* はほとんどの場合、弱化音節である。

発音しましょう

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| (1) amu 「仕事」 | (3) shani 「日」 | (5) sharaw 「虎」 |
| (2) galaw 「する」 | (4) lamu 「天」 | (6) kawa 「竹」 |

考えましょう

- 弱化母音にはなぜ声調の区別がないのでしょうか
- *ǎ* と *a* を書き分けずに読み間違いが起こらないのはなぜでしょうか
- ジンポー語のように「タタン」というリズムを好む東南アジア大陸部の言語には何があるのでしょうか

2.9 緊喉母音

母音は、無声閉鎖音 (i.e., p, t, k, ts, chy)、または、前声門化閉鎖音を持つ共鳴音 (i.e., qm, qn, qng, ql, qr, qw, qy) に後続するとき、声門の緊張を伴った緊喉母音として発音されることがある。例えば、pa「平らだ」は [pa̠] と発音されることがある。ただし、緊喉母音

として発音しない話者も多いため、無理にまねる必要はない。

発音しましょう

- | | | |
|--------------|---------------|----------------|
| (1) pan 「花」 | (3) kan 「腹」 | (5) chye 「知る」 |
| (2) tam 「探す」 | (4) tsan 「遠い」 | (6) qngam 「残る」 |

2.10 成節鼻音

語頭に「ン」を持つ語が多く観察される。例えば、**ndai**「これ、この」、**nta**「家」、**nhtoi**「光」などがある。これらの「ン」を「成節鼻音」と呼ぶ。これらは短く発音される。例えば、上記の語は「ンダイ」、「ンター」、「ントエ」と発音される。「シーダイ」、「シーター」、「シートエ」などではない。正書法について、注意を要する点として、**ng** と **n-g** の違いがある。例えば、**ngu**「言う」と **n-gu**「米」は発音が異なる。**ngu** は「ングー」と「ング」をひとまとまりに発音し、**n-gu** は「ン・グー」のように分けて発音する。

発音しましょう

- | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| (1) nsen 「声」 / <i>ñsén/</i> | (3) nmai 「尻尾」 / <i>ñmài/</i> | (5) nshang 「腰」 / <i>ñshang/</i> |
| (2) nhtu 「刀」 / <i>ñhtu/</i> | (4) nbaw 「もち米」 / <i>ñbaw/</i> | (6) n-gup 「口」 / <i>ñ-gùp/</i> |

考えましょう

- 成節鼻音は音声的にすべて同じ音で実現されるでしょうか
- 成節鼻音が1つの音節をなすことを示す証拠にはどのようなものがあるでしょうか

2.11 否定辞の声調

否定辞 **n**「ない」は動詞に付加され、動詞を否定する (e.g., **yu**「見る」→ **n yu**「見ない」)。否定辞は頻出形式であるため、関連する声調の変化(変調)をまとめる。否定辞は、(1)に示したように、多くの場合、高い声調 *ń* で現れる。ただし、中平調 [33] の直前では中平調 [33] として実現される (1b)。また、否定辞は、直後の低降調 [31] を高降調 [51] に変換する (1c)。さらに、直後の短く低い声調 [1q] を短く高い声調 [5q] へ変換する (1e)。

(1) 否定辞の声調

- /*shá/*「食べる」→ /*ń shá/*
- /*yu/*「見る」→ /*n yu/*
- /*mù/*「見える」→ /*ń mù/*

d. /láwq/ 「多い」 → /ń láwq/

e. /lùq/ 「飲む」 → /ń lúq/

考えましょう

- 否定辞が関連する声調の変化は音声的に自然といえるでしょうか
- 否定辞が関連する声調の変化を図を用い定式化して考察しましょう

2.12 発音と文字の不一致

上述したとおり、基本的に文字は書いた通りに発音する。ただし、一部に発音と文字の不一致が認められる。とくに多いのは、弱化母音の直前の **k** の大部分が実際は **g** である例である。例えば、「よい」は正書法で **kaja** と表記するが、実際には /gaja/ と発音される。

発音しましょう

(1) kadai 「誰」 /gadai/

(3) kanau 「弟、妹」 /ganau/

(5) kaji 「小さい」 /gaji/

(2) kawa 「父」 /gawà/

(4) kaba 「大きい」 /gabà/

(6) kabu 「うれしい」 /gabu/

練習問題 3

発音しましょう

(1) dai 「それ」 /dai/

(9) man 「顔」 /man/

(2) woi 「サル」 /woi/

(10) dung 「座る」 /dung/

(3) chywi 「縫う」 /chywi/

(11) lup 「埋める」 /lùp/

(4) rau 「ひまだ」 /rau/

(12) dat 「放つ」 /dàt/

(5) pru 「出る」 /pru/

(13) gawk 「部屋」 /gàwk/

(6) hkrung 「生きる」 /hkrung/

(14) manang 「友だち」 /manang/

(7) hkyen 「氷」 /hkyen/

(15) ndai 「これ」 /ndai/

(8) lum 「温かい」 /lum/

(16) n-gu 「米」 /n-gu/

声門閉鎖音を聞き取りましょう

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) wa 「帰る」 | (8) ja 「硬い」 |
| (2) wa 「豚」 | (9) ra 「必要だ」 |
| (3) lu 「飲む」 | (10) ra 「好む」 |
| (4) lu 「手に入れる」 | (11) htu 「搗く」 |
| (5) di 「切る」 | (12) htu 「雨が降る」 |
| (6) di 「卵」 | (13) u 「鳥」 |
| (7) ja 「金」 | (14) u 「～しろ」 |

声調を聞き取りましょう

- | | |
|----------------|------------------|
| (1) mu 「見える」 | (8) sha 「食べる」 |
| (2) mu 「おいしい」 | (9) sha 「子ども」 |
| (3) mu 「仕事」 | (10) sha 「～だけ」 |
| (4) lu 「手に入れる」 | (11) na 「耳」 |
| (5) di 「目を閉じる」 | (12) na 「聞こえる」 |
| (6) di 「する」 | (13) lagat 「蜂」 |
| (7) di 「卵」 | (14) lagat 「菩提樹」 |